

# 「ようこそ大学へ！プロジェクト」

## ―施設等の子どもたちへの学習支援―

名古屋市立大学人間文化研究科

谷口 由希子

- 【子どもたちの感想】
- ・大学生とたくさん関わることができて楽しかった。
  - ・教授の部屋には、優しい先生がたくさんいた。
  - ・ゼミ周りで先生の隠し玉がすごかった（特にヘラクレスオオカブト）。
  - ・大学のことがよく知れて良かった。
  - ・お兄さん、お姉さんと勉強ができて楽しかった。
  - ・初めて大学に行ったけど、教室が大きかった。

二〇一八年八月一〇日に「ようこそ大学へ！プロジェクト」施設等の子どもたちへの学習支援を名古屋市立大学人文社会学部で開催した。本企画は、二〇一三年から毎年八月の夏休み期間に行われており、今年で六回目の開催となる名古屋市立大学と名古屋市の共同企画である。当日の参加は、児童養護施設六施設、児童自立支援施設一施設、母子生活支援施設一施設、里親二家庭から合計九七名（小学生四九名、中学生二〇名、高校生三名）があった。大学からは、大学生八七名、教員二四名の参加があった。名古屋市からは、子ども青少年局子ども福祉課から三名の参加があった。六年連続で参加している子どももあり、また、多くの教員も例年参加しており、子どもたちとの関係も構築されてきている。

本企画は、児童養護施設等の社会的養護のなかで生活する子どもたちと大学生が交流しながら大学という場を知ってもらい、学習支援を行うものである。企画を通して、子どもが将来について考えるきっかけをつくることも目的としている。当日は、子どもたちは大学生とペアになり、ともに勉強をし、学食体験や教員の研究室訪問を行う。当日のスケジュールは、

- 【職員や施設の感想】
- ・毎年楽しみにしている子が多い。

左記である。

### ■当日のプログラム

9:45～10:00	参加者（子どもたち）入室 （座る場所で名札・プログラム・袋を受け取り着席する）
10:00～10:30	オープニング：ダンス部 （カフェ） 一日の説明（谷口由希子准教授、谷口ゼミ長：平田明日香） 山本明代学部長からごあいさつ
10:30～11:20	学習時間 （持ってきた宿題を行う）
11:20～13:10	・大学探検 （図書館ツアー、部活・サークル体験・自由研究体験） ・学食体験
13:10	伊東恵美子副市長からごあいさつ
13:30～15:00	・教授カフェ：研究室訪問 （大学生とともに研究室を訪ね、先生に質問してみよう！） ・心理学実験体験 （久保田先生、鋤柄先生、天谷先生） ・大学探検 （図書館ツアー、部活・サークル体験・自由研究体験）
15:00～15:30	全体会 （感想、表彰と大学生からのお礼、郡健二郎学長からのお礼）

中高生にもなると、行事の参加率が悪くなるが、「来年も行きたい！」という声ばかり。学生の皆さんが年齢も近く、憧れの存在で、気さくで、小学生から高校生それぞれの求めるものを考え企画してくださっているからだと思った。たくさん準備ありがとうございました。

・他施設の子どもの交流（学生、子ども、先生でクイズ大会や子ども会議）ができたら良いと思う。

・子どもの礼状に「説明が分かりやすかった」「優しかった」とあり、それが全て。環境に占める人の影響が大きい故、「改めて大学に行きたい」気持ちを引き出せたのだと思う。

・ダンスやアカペラ等、子どもたちは興味津々で見ていた。毎年楽しいプログラムを用意してください、ありがとうございます。  
・大学という高等教育機関は普段は縁遠いところなので、教室や研究室に入って、どのようなところかというのを実際に体験できることはとても有意義だと思う。

・いつもとは違う環境で積極的に学習へ取り組む子どもたちの姿が見られてよかった。例年参加

している子ども企画の話をする、「行きたい！行きたい！」とても前向きに参加してくれたことは、大学の皆さまが子どもたちのために一生懸命取り組んでくれているからだと思う。

本企画の子どもの生活への影響があるかについては、以下のような回答があった。

【企画の子どもへの影響について（施設職員）】

・「〇〇先生は〇〇大学だったんでしょ」、「〇〇の近くに大学あるよね」と言いはするものの、大学って何をするのか、どんなところなのか想像もつかない子どもが多かったのが、「大学って広い」、「色んな先生がいる」、「自分のやりたいことが勉強できるところ」と子どもたちのイメージがより具体的になってきている。

・大学を知る、学生の生活を知るとい意味では、学生から直接話を聞くことで、年々理解が深まっているように感じた。

・高校生にとっては、大学という近い将来関わるかもしれない場所に触れ、現実を見て悩むきっかけになった。

・子どもは大学というものを全く知らないで、毎年楽しませてもらっていることで、進路の選択や興味も増えると感じた。

【進学への意識や将来への見通しについて】

・将来の夢を抱く子は増えているように思うが、施設の子は、一般家庭よりも金銭的負担が明らかに重く、現実を見て諦めている子もいると思う。

・参加者は小学生が中心なので、まだ進学のイメージとは結び付きにくい。

・いかに学ぶ意欲を喚起する動機付けをしていくか課題がある中で、この企画は動機付けの良い契機と実感した。来年度は計画的に行事にはめ込み、自立支援担当職員中心に企画参加してもらいたいと思う。

・近年、大学へ行きたい！という子が増えているように感じる。また、大学だけでなく、高校進学でも「するのが当たり前」と考えられる子が増えていることも喜ばしいことである。

・大学が「こういうところ」というイメージができた。  
・大学へ行きたい、ゼミ等、大学生活を楽しんでみたい。

・参加児童2名は中1だけだったが、現在早くも志望校の検討を始めている。大学進学までは考えていないようだが、早期から自分のやりたいことを見つけて、将来について考えられていることは、とても大切だと思う。

・実際に見たり聞いたりすることで、子どもたちが進学や大学に興味を持ち、職員に質問をしてくるようになった。

本企画は、子どもたちの学びだけではなく、参加する学生も事前に社会福祉制度や児童福祉論を学習し、実践を通じた学びの相互作用も一つの目的としている。そのため、参加した学生にどのような学びにつながったかアンケート調査を行った。当日参加した学生八七名にアンケートを配布したところ、回収は四七名であり、回収率は五四%であった。

学生に「本プロジェクトを通じて、どのようなことが達成できたか」について、①コミュニケーション能力の向上、②社会的視野が広がった、③主体的に取り組めた、④知的関心を呼び起こされた、⑤問題発見・課題解決能力が向上した、⑥その他を複数回答で尋ねた。結果を図1に示す。

学生の多くは、①コミュニケーション能力の向上、②社会的視野が広がったことを自らの学びと捉えていることがわかる。また、自由記述欄からは、「相手の立場に立って考える機会になり、視野が広がり、考えが深まった」、「子どもたちの、自分から主体的に学ぼうとする姿勢を学生も見習うべきだと感じた」、「相手の立場に立って考える機会になり、視野が広がり、考えが深まる」というコメント

トが多くあり、学生自身の主体的な学びに繋がっていることが推察される。  
引き続き、本企画を継続的に行うことをとおして、本学部が教育理念として「自然や他者との関わりを通して地球社会および人間存在を問うとともに、私たち一人ひとりの『持続可能な生き方あり方』を捉え直す教育」(ESD)の実践の場の一つとしたい。

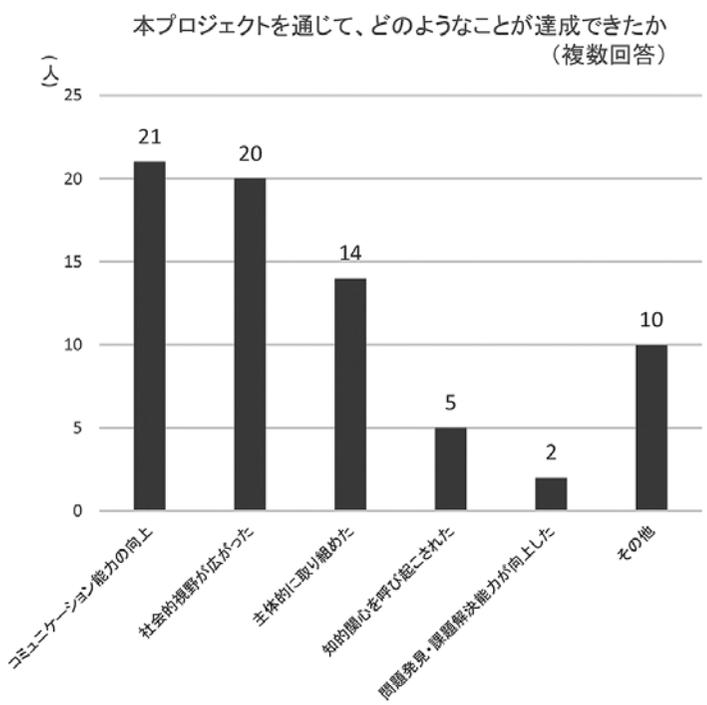


図1 参加学生の学び



「ようこそ大学へ! プロジェクト」大学生サークルのアカペラ